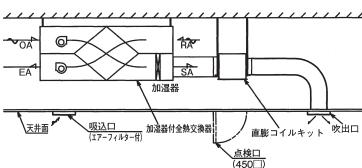


⑤ダクト工事



- エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
- 吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- 天井面に点検口を必ず設けてください。電線、モータ、機能部品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは6.5mm(JISA 9501)です。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒R22で使用している既設配管を使用する場合は、下記点に注意してください。
・薄肉配管の使用は避けしてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金複合無鋼管 (G1220T, JIS H3300) をご使用ください。
また管の内面は美観があり、使用上有害な硫酸、酸化物、ゴミ、切粉等（コントミ）の付着がないことを確認してください。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
R410A以外(R22等)の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になります。破裂の原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも口付けする直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。
- 室内機配管はサービスバルブを取外し可逆とするため配管方向がどのような方向でも必ずユニットから400mm以上のストレート部分を設けてください。

作業手順

- ろう付け作業時は、ろう付け部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
- 室内機のろう付け部は、ガス漏れチェック後、断熱材（現地手配）をかぶせてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管に断熱しないと結露し水漏れします。現地にて断熱材を手配し断熱してください。断熱材の厚みは20mm以上としてください。
3. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

形式	液配管	φ9.52	フレア接続
SAF-DXP10003	ガス配管	φ15.88	フレア接続
SAF-DXP8003	液配管	φ6.35	フレア接続
SAF-DXP5003	ガス配管	φ12.7	フレア接続
SAF-DXP3503	液配管	φ6.35	フレア接続
SAF-DXP3503	ガス配管	φ9.52	フレア接続

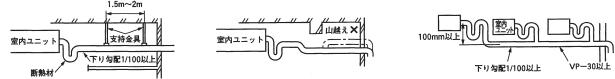
⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン配管は必ず保温してください。保温は室内機のドレンパン側面のソケット部まで行ってください。
配管工事に不備があると、家財・電算機等を濡らす原因となります。
- ドレン配管を接続する場合、室内機側の配管に力を加えないように注意して行い、出来る限り室内機傍近で配管を固定してください。
- ドレン配管は、室内機外側に下り勾配(1/50 ~ 1/100)とし、100mm以上の水封が作れるトラップを設けてください。(奥気止め、逆流防止の為)
- 配管施工後、排水が良好に行われていることと、水漏れのないことをご確認ください。
- ドレン配管の出口は臭気発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレンパンは定期的に清掃してください。
- ドレン配管サイズは途中で細くしないでください。またドレン配管が集合する場合は十分な大きさとしてください。

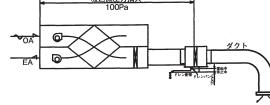
△警告

ドレン配管は、硫黄系ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する危険があります。



ご注意

ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。



〈トラップの施工〉

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを（配管工事のとき）1箇所設けてください。
トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。右図に示すようにT形緩手を使用してください。またトラップの高さも右図の様な寸法としてください。
トラップはユニットの近くに設けてください。

●ドレン配管の途中に1箇所、左端のようなトラップを設けてください。
 $H_1=100\text{mm}$
 $H_2=\frac{1}{2}H_1$

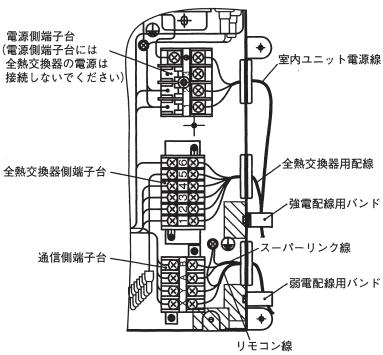
排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。
○点検口をはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。
又、水漏れのないことをご確認ください。

⑧電気配線取り出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所内のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないよう固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を辿さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- 種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事は、付属の電気配線工事説明書(PCH012D005)をご覧ください。

- 電気箱の蓋(ねじ2本)を取外し、上部の引掛けを外してください。
- 各配線をユニットに入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線鉄板参照ください。
- 各配線をクランプで固定してください。
- 取外した部品は元通りに取付けてください。



詳細は付属の電気配線工事説明書(PCH012D005)を参照ください

⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりとていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
②の風量範囲に入っていますか。	冷えない・暖らない	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の鉄板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込、吹出しが障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖らない	

- チェック終了後、試運転を行ってください。試運転は室外機据付工事説明書に記載の手順で行ってください。

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又是過熱、ショートによる火災のおそれがあります。
- ▲警告
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
- 電源回路容量が不足や施設設備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 接続や固定部が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内ユニット間の配線は、端子力バーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
- カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部が発熱、火災や感電の原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
- ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 別用品は、必ず当社製の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
- ご自分で取付けされ、不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理をお買い上げの販売店に相談する。
- 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを自動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
- 接付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
- 点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 電源を切った後に電気工事をする。
- 感電、故障や動作不良の原因になります。

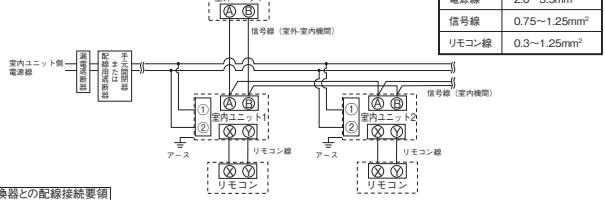
△注意

- アース（接地）を確実に行う。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取り付ける。
- 漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
- 大きな容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になります。
- 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になります。
- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
- 漏電や発熱、火災などの原因になります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線より線を併用しない。
- 端子台のねじゆるみや拧れ不良が生じ、発煙・発火の原因になります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
- 必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
- 火災や水漏れの原因になります。ファンが突然回り、ケガの原因になります。

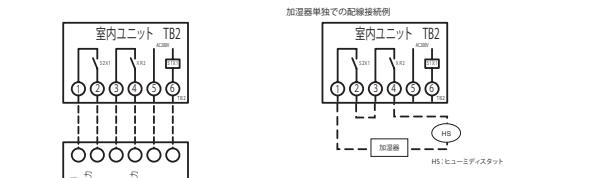
①電源・室内外・全熱交換器配線の接続

- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感電電流 3.0 mA）を設置してください。
- 専用の分岐回路を用いて、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカー落ちによる 2 次事故が発生する恐れがあります。
- D 地接地工事を必ず行ってください。
- 室内ユニットに接続する電源線は 3.5 mm²まで使用可能です。5.5 mm²以上の配線を使用する場合は、専用のブルボックスを使用し、室内ユニットへ分歧してください。
- ユニット外部部は、リモコン線や電源線が直接接触しないよう施工してください。
- 天井構造内に通す際は、絶対に水が漏れないような配置を行ってください。
- 信号線は工事完了するまで取扱いください。
- 電源は工事が完了した後で接続しないでください。故障の原因になります。
- 信号線を途中接続する場合は、絶対に水が漏れないような配置を行ってください。
- 電源は工事が完了するまで取扱いください。
- ユニット間配線、アース線およびリモコン線の接続
- ①ユニット間配線：アース線およびリモコン線の接続は、制御箱の蓋を取り外し、電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は電源側端子台アース端子に接続してください。
- ②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製 N V-C シリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

配線系統図（室外・室内ユニット接続要領）



全熱交換器との配線接続要領



●①の暖房出力は、運転停止時に暖房モード時に出力されます。

●必ず SAF の運転に連動して全熱交換器が運転する接続としてください。

●全熱交換器のリモコンでは運転しないでください。

●詳しくは全熱交換器取扱説明書・取扱説明書をご覧ください。

電源仕様

室内機電源仕様	形	電源遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
SAF-DXP3503	5003	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	2000m	0.75~1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
	8003								
	10003								

注 1. 配線こう長は、電圧降下 2%とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

注 2. リモコン線の延長距離が 100m を越える場合は、③リモコンの取付けに従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチの場合

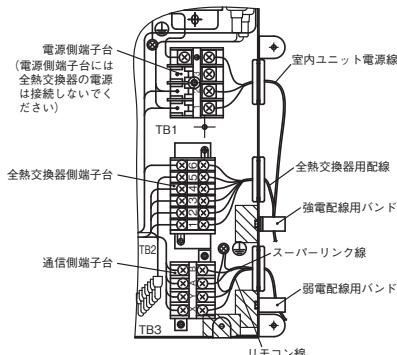
分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）に付属の据付説明書をご覧ください。

②電気配線取り出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通りないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D 地接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋（ねじ 2 本）を取り、上部の引掛けを外してください。
2. 各配線をユニットに入れ、端子台に確実に接続してください。
3. 各配線をクラシソーフに貼付の電線録板参照ください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



③アドレス設定

- アドレス設定は、(1) 手動アドレス設定、(2) 自動アドレス設定の 2 方法ができます。
自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。
設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

④リモコンの取付け（別売部品）

- 次の位置へ取付けないでください。

- 直射日光の当たる所
- 発熱器具に近い所
- 湯気の多い所、水が飛散する所
- 床面が発熱・結露する所
- 油の飛沫・蒸氣が直接触れる所
- 取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

- ①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。
- ②リモコン線は、0.3 mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。（現地手配）
- ③リモコン線の総延長は 6.0 m です。

延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大 0.5 mm²以下とし、リモコン外側の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

1.0 m ~ 2.0 m 以内 ··· 0.5 mm²×2心
3.0 m 以内 ··· 0.75 mm²×2心
4.0 m 以内 ··· 1.25 mm²×2心
6.0 m 以内 ··· 2.0 mm²×2心

④誤動作する場所はありますので、多芯ケーブルの使用は避けください。

⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）から離さなければ離してください。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

1 リモコンによる複数台用ユニット制御

- ①1つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
- 同一モード、同一室温設定で運転します。

- ②ケーブル配線用に各室内ユニット間を 2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

- ③室内・室外 No.0 を手動アドレス設定にてセットしてください。

- 室内ユニット板上のタグ SW1・SW2 により、室内 No.0 を書き換えないように設定してください。

- 室外ユニットの室内 No. 設定も必要です。忘れないで設定してください。

- ④左図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。

電源投入後、リモコンのエアコン No. を押すと室内アドレスが表示されますので、▲ボタンで接続されている室内アドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。

室内ユニット確認方法

エアコン No. が表示されている時に運転切換ボタンを押すとその No. の室内ユニットが送風運転します。（表示例：内 000 送風））再度運転切換ボタンを押すと、送風運転を停止します。

但し、エアコンが運転中の場合は無効です。

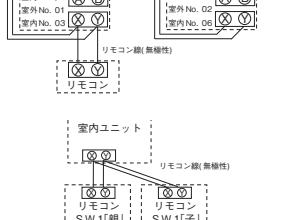
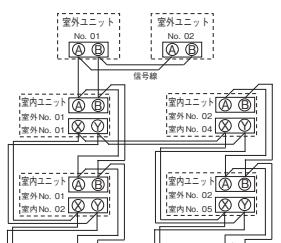
複数リモコン使用時の親子設定

室内一台（又は 1 グループ）に対して、最大 2 個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン 2 台、あるいはワイヤードリモコン + ワイヤレス 2 台、あるいはワイヤレスキット 2 台のいずれかの組合せができます。

- ①リモコンの切換えスイッチ（ワイヤードリモコン：SW1、ワイヤレスキット：SW1-2）を「子」に設定してください。初期設定は「親」設定です。

- ②注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



スイッチ	設定	機能内容
ワイヤードリモコン: SW1	親	親リモコン
ワイヤレスキット: SW1-2	子	子リモコン

